

やまびこだより

■発行責任者 / 遠阪自治協議会 会長 山本正司
■発行所 / やまびこセンター「萬歳山」
■URL : <https://www.tamba-plaza.jp/tozaka/>
■E-mail : tosaka@key.ocn.ne.jp TEL・FAX:88-0420

50号



HPはこちら

令和5年
1月20日

遠阪楽校
100年先の人づくり

年頭のご挨拶

遠阪自治協議会 会長 山本正司

新年明けましておめでとうございます。



さて、長引くコロナ禍により不慣れた日常をお過ごし
かと思いますが、引き続き、予防や感染拡大防止に努めていただきま
すようお願い申し上げます。

ところで、昨年はコロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、
十一月十三日に開催した「全国の足立さん集まれ祭り」は、丹波市内
外で大きな反響を呼び、大盛況の元に終えることができました。

反対に、一昨年度より最重要課題として取り組んできた「福知山里
キャンプ」を初めとする旧遠阪小学校廃校利活用事業については、山
垣地区4自治会での説明会を受けて主催業者が撤退を表明してきた
のは残念でした。そして、その理由は「地元で強い反対意見があり、
山垣区住民の理解と信頼関係が無ければ事業として成立しない。」と
いう意見でした。したがって、今回の経過を踏まえ、臨時総代会を十
二月十七日に開催し、事業者の撤退についてはやむを得ないと判断
頂く共に、今後も廃校利活用事業の継続を承認頂いた事を申し添えて
おきます。

ところで、この事業は「進出業者の地元理解と遠阪の地元支援」が
大前提です。そして、「遠阪の活性化に繋がるか」の観点で、利活用検
討委員や理事の方々が長時間をかけて検討してきたものです。当然、
キャンプ事業に対する疑問もその過程で度々議論しました。

しかし、最初から完璧な企業活動を営む組織など存在しません。問
題が生じた時、業者と自治協議会が真摯に向き合い、問題解決を図る
組織的な取り組みこそ重要なのではないのでしょうか。

遠阪小学校が廃校になり、まもなく六年が過ぎようとしています。
何の変化も生み出さない現状を見た時、初めの一步を踏む出す勇氣こ
そ大切に思われて仕方ありません。

この新しい年が、皆様にとって良き年になりますよう心から祈念い
たしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

「国道429号榎峠バイパス事業起工式」が、青垣 住民センター体育館で盛大に開催されました。

国道429号は昔から福知山市と遠阪を行き来
する生活道路として地域に親しまれてきました。

しかし、現況幅員が狭くつづら折りの道路のた
め、普通車のすれ違いさえ困難な状況でしたが、改
修促進協議会が平成十五年に組織され、早期事業化
を求めて官民一体となったアピール活動や要望活
動に取り組んだ努力が結実に至りました。

式典では、国道429号改修促進協議会の足立信昭
会長が地域を代表して「喜びの声」として登壇されま
したが、苦節二十年のご苦労と喜びが万感の思いにな
ったようです。「運動の難しさに、協議会を何回解散し
ようと思ったか分かりま
せん」という足立会長の
言葉は、大きな説得力を
もって会場に鳴り響いて
いました。

今後は近畿地方の南北
を走る高速道路を東西に
結ぶ道路として機能する
ほか、災害に強いネット
ワークを形成し、緊急医
療活動の支援や地域観光
振興の活性化の促進など
に貢献してくれるものと
期待されています。



旧遠阪小学校利活用事業

「キャンプ事業」が、中止となりました

はーとコミュニティサービス外2社によるキャンプ場運営などの提案事業について、9〜10月にかけて、山垣4自治会に説明会を開催しました。

その結果、説明会を受けて、事業者から撤退の申し出があり、遠阪自治協議会は、撤退についてはやむを得ないと判断をしました。

今回は、その概要についてお知らせします。

問1 なぜ撤退となったのか？

事業者からは、次の理由により、撤退をしたい旨の申し出がありました。

- ・地元の反対が強く、賛成意見がなかった。
- ・反対意見を説得して事業を展開する地域では、実

施が難しい。

- ・失礼な言い方があった。
- ・地理的条件から考えて、周辺民家に迷惑がかかる。
- ・隣接者が我慢することはしたくない。
- ・夜のサイレントタイムが9時となるとキャンプの魅力がなくなり、事業として長続きしない。
- ・このような状況の中では、一緒にやりたくない。

問2 反対の意見は、どんな内容なのか？

- ・9時以降も騒げるキャンプ場は、いかなるものか。
- ・近隣のため、夜間の騒音やキャンパーの歩音が不安であるので反対である。
- ・近隣の方が困っている中で、事業を推進するのは、いかなるものか。
- ・周辺の安心安全を考えるべきで、ふさわしくない事業である。

住民アンケート結果(前号の続き)

「個人や家族で支えられる範囲が縮小」

高齢者は、夫婦二人・独居の割合が多く、地域での活動や役を担うことが難しくなるとともに、近所や地域の支えがますます必要になってくる可能性がある。

「人口減少と高齢化による自治会の役の見直しが必要」

自治会の役の維持に困っており、自治会等の見直し、縮小などの対応が必要との意見が多くあった。

「遠阪地域の未来デザインプロジェクト」

の取り組み

アンケートの結果からは、人口減少・少子高齢化の進展により担い手が不足し、自治会での伝統行事、草刈り、防災、支え合いなどが徐々にできなくなってきており、その活動に限界が来ていることが

うかがえます。

これからは、自治会同士の連携や外の力を借りるなどの新しい仕組みを考えて、地域で抱えている課題を解決し、地域を維持していく必要があると考えます。

そのため、遠阪自治協議会が中心となって、区・自治会と協力しながら、市民活動課・市民活動支援センターの支援を受けて、「遠阪地域の未来デザインプロジェクト」に取り組みことになりました。

この事業は、今後2年間かけて取り組んでいき、「地域や暮らしの将来(ありたい姿)」、「自治会の連携、区や自治協議会の役割」などについて皆さんと話し合い、その結果、活動の内容・やり方・方法・その範囲などについて、見直していくものです。

十年後の遠阪地域や暮らしのことについて、皆さんと一緒に自分のこととして真剣に考え、話し合う場をこれからつくっていきたくと考えておりますので、今後のご協力をお願いします。

・解体までの期間があるので、他の提案も検討すべきである。

問3 賛成の意見は、なかったのか？

賛成意見はありませんでしたが、個別に隣接者に意見を聞いた際には、次のような意見がありました。

- ・專業農家のため、歓迎する。農産物の販売については、参画したい。
- ・小学校を利用して活性化が図れるのなら、そんな嬉しいことはない。
- ・仮に問題が起きても、その時点で解決していけばいいことであるので、取り組んでいけばよい。

問4 その他には、どのような意見があったのか？

・3月以降、今日までどのような経過があったのか説明がないので、これまでどのように検討されてきたのかわからない。

- ・体育館は、災害時の避難所に利用できるのか。
- ・持続可能な事業として取り組んでほしい。
- ・採算ベースに乗せるためには、計画や、目標が必要ではないか。

・遠阪小学校は、建ってから40年となるが、今後の改修計画はあるのか。

問5 事業者が決まらない時には、今後小学校はどうなるのか？

・令和3年度(前事業者の撤退日)から起算して、5年後の令和8年3月末までに事業者が決まらない時には、解体撤去されることとなります。

問6 今後自治協としては、どうしていくのか？

・小学校の利活用に関して、地域の方々の意見を広く聞く場を設け、遠阪地域として、小学校活用の具体的な方針をまとめます。その後、その方針に沿って、市とタイアップして事業者募集を行う予定です。